

文化女子大 成瀬 信子  
○吉見美智子  
大畑 文乃

1. 一般のアイロン掛けにおける織物の加圧力を調べ、これを基準として織物に加わる圧力を変化して加熱、加圧し、そのときのひだつけ効果を求め、同時に織物の厚さ、幅を測定し検討を行なった。

2. アイロン掛けの織物にかかる圧力の測定には万能引張り試験機に圧縮弾性用ロードセルをとりつけ、その上でアイロン掛けを行ない、加圧変化を記録し、それから平均圧力を見いだした。アイロン掛けは、温度調節器のついたアイロンテスターを用い、圧力は、6, 12, 18, 24, 30g/cm<sup>2</sup>の5段階に変化させて熱セットした。ひだつけ効果は、二つ折りにして熱セットした後の開角度を測定し、圧力が開角度に及ぼす影響を検討した。厚さと、幅の変化は、原布と熱セット後の値を測定し、両者の間に差があるかどうかを検討した。供試材料は、ポリエステル、ナイロン、アセテート、綿、羊毛の生地を用いた。

3. ① 自重11g/cm<sup>2</sup>のアイロンによるアイロン掛けの織物にかかる圧力の平均値は約13g/cm<sup>2</sup>程度である。

② 熱セットにおける圧力が織物に及ぼす影響は、a) アセテートタフタ、ナイロンタフタは圧力が開角度に及ぼす影響は大きい、その影響は一定していない。b) 綿ブロードは圧力が開角度に及ぼす影響は小さい、その影響は非常に安定している。c) ウールポプリンは圧力が開角度に及ぼす影響は小さく、またその影響は、ナイロンタフタと同じく安定性に乏しい。